

2007年度授業評価アンケート結果報告

名古屋経済大学 FD 委員会

平成20年3月7日

1 授業評価アンケート実施の経過

名古屋経済大学では、2005年度から全学的な授業評価アンケートを実施している。2005年度から2年の期間をかけて、講義、演習、実技、実習科目を対象に授業評価アンケートを実施することにした。

2005年度は、講義科目を授業評価アンケートの対象とした。それぞれの教員の担当科目の中で1科目を選択し、授業評価アンケートを実施した。総授業数972科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、71科目であり、実施率は7.30パーセントであった。総受講生数36,800人の中で、実施受講整数は5,554人であり、有効回答数は975であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、17.55パーセントであった。

2006年度は、演習、実技、実習科目を授業評価アンケートの対象とした。それぞれの教員の担当科目の中で1以上の科目について、授業評価アンケートを実施した。総授業数971科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、374科目であり、実施率は38.52パーセントであった。総受講生数36,781人の中で、実施受講整数は7,696人であり、有効回答数は4,588であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、59.62パーセントであった。

2005年度と2006年度の授業評価アンケートの実施率があまり高くなかったので、2007年度は、開講されているすべての科目を対象として、授業評価アンケートを実施することにした。前期開講の半期科目については、7月の第1週に、後期開講の半期科目と通年科目については、12月の第1週と第2週に授業評価アンケートを実施した。

前期の授業評価アンケートについては、総授業数291科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、283科目であり、実施率は97.25パーセントであった。総受講生数15,299人の中で、実施受講整数は15,081人であり、有効回答数は9,362であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、62.08パーセントであった。

後期の授業評価アンケートについては、総授業数601科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、594科目であり、実施率は98.84パーセントであった。総受講生数21,843人の中で、実施受講整数は21,572人であり、有効回答数は12,406であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、57.51パーセントであった。

2 全授業の授業評価アンケートと実施方法

2007年度の授業評価アンケートは、開講している授業の一部ではなく、すべての授業を対象としている。前期の授業評価アンケートの実施率は、97.25パーセントであり、ほとんどの授業で授業評価アンケートが実施された。後期の授業評価アンケートの実施率は、98.84パーセントであり、前期より実施率が高くなった。実施されなかった授業には、教育実習や保育実習などの学外実習、開講時期の関係で既に終了した授業が含まれている。

授業評価アンケートの質問項目は、次の通りである。

- 1 あなたは、この授業に出席していますか。
- 2 あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。
- 3 教員は、授業時間を守っていますか。
- 4 授業内容は、わかりやすいですか。
- 5 教員の声は聞き取りやすいですか。
- 6 授業の速さや進め方は、適切ですか。
- 7 教員の教え方には、熱意が感じられますか。
- 8 教科書、板書、配布資料、視聴覚教材が活用されていますか。
- 9 視聴覚機器（ビデオ、OHP、プロジェクターなど）が活用されていますか。
- 10 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。
- 11 あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか。次の中から3項目以内で選んでください。
 - 1 専門用語がむずかしい
 - 2 授業がつまらない
 - 3 黒板の字が読みにくい
 - 4 授業内容をプリントにしてほしい
 - 5 受講人数が多すぎる
 - 6 休講が多い
 - 7 開講曜日や時限が悪い
 - 8 学生の取り扱いが不平等である
 - 9 教員がいばったり、学生を見くだす
 - 10 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない
 - 11 授業のための施設、設備に満足できない

A. あなたの所属している学部・学科はどこですか。

- 1 経済学部・現代経済学科
- 2 経済学部・消費経済学科
- 3 経済学部・経営学科
- 4 経営学部・経営学科
- 5 法学部・法学科
- 6 法学部・企業法学科
- 7 法学部・国際関係法学科
- 8 人間生活科学部・幼児保育学科
- 9 人間生活科学部・管理栄養学科

B. あなたは、何年度入学ですか。

- 1 2007 生
- 2 2006 生
- 3 2005 生
- 4 2004 生
- 5 2003 生
- 6 2002 生
- 7 2001 生
- 8 2000 生
- 9 その他

C. あなたは、何年生ですか。

- 1 1 年生
- 2 2 年生
- 3 3 年生
- 4 4 年生
- 5 その他

後半の A から C の質問項目は、集計のために必要な項目であり、授業評価の内容と直接の関係がないものである。

前半の 1 から 11 の質問項目は、2005 年度から実施してきた授業評価アンケートの質問項目とはほぼ同じである。11 番目の質問項目は、授業に対する学生からの要望を知るために設けている。自由記述にすべきであるという意見もあった。しかし、誰が集計するのか、個人名が書いてある場合はどうするのか、集計されたものをどのように公表するのか、などの意見が出た。そこで、複数の選択肢を学生に提示し、その中から選んでもらうことを考えた。質問項目は、全学部を通して共通のものである。

質問項目については、自由記述の欄を設けてはどうかという意見もある。しかし、ごく一部の学生は、該当の科目とは関係ない教員の悪口を書くことがあるので、取り扱いに困ることがある。

授業評価アンケートの結果については、それぞれの教員に配布している。

3 検討課題

2007 年度前期及び後期の授業評価アンケートについて、次のことを検討課題として指摘することができる。第 1 に、学生の出席率が前期では 62.08 パーセントであり、後期では 57.51 パーセントであり、あまり高くない。学生の出席率をどのようにして高めるのか。これは、かなりむずかしい課題であるけれども、授業内容を工夫するなどして、授業への学生の出席率を高める方策を検討したい。

第 2 に、授業評価アンケートの結果を受け取った後、教員がどのようにして結果を生かしていくのかを検討する必要がある。まず、それぞれの教員は、自分の授業について、学生がどのように感じているかを把握しなければならない。学部ごとの平均の数値が出ているので、自分の授業の数値と比較するのもひとつの方法である。次に、それぞれの教員が、自分の授業の中で、改善できる点を見つけて、次に開講するときに改善点を実行すべきである。

2008年度には、それぞれの教員が担当科目について、現状の説明、自己評価、改善・向上方策の項目に分けて、考察を書いていただくことを検討する予定である。

第3に、授業評価アンケートの結果をどのようにして、どの程度公表するかという課題がある。2007年度前期及び後期の場合、授業評価アンケートの結果は担当教員に知らされるとともに、学部長に大学の全教員の授業評価アンケートの結果が渡されている。担当教員以外の教員や学生は、授業評価アンケートの結果を見ることができない。将来的には、授業評価アンケートの結果をホームページなどにおいて、すべて公表し、教員や学生が自由に見られるようにすることが望ましい。授業評価アンケートの結果を公表するためには、学内の意思統一が必要である。

2007年度前期及び後期の場合、「2007年度授業評価アンケート結果報告」を小冊子にして公開するか、ホームページで公表することが、課題となる。

第4に、授業評価の対象となる科目の見直しをすべきである。2007年度後期には、ゼミも「卒業論文」も、授業評価の対象とした。ゼミについては、授業評価アンケート項目が適切ではない場合があり、授業評価のあり方を見直す必要がある。「卒業論文」については、授業評価にはなじまないとの指摘があり、次年度以降、授業評価の対象に含めないことを検討している。

次に、少人数の科目の場合、統計的処理の有効性が、疑問視されている。たとえば、受講生が10人以下のとき、質問項目の答えが何パーセントあったかを問うことは、あまり生産的ではない。しかし、少人数の科目を授業評価の対象からはずすことは、全学的な授業評価の観点から、できるだけ避けたいことである。

4 授業評価アンケートの集計結果

(1) 有効回答数

学部学科ごとの有効回答数は、次の通りである。

	前期	後期
経済学部・現代経済学科	1,660	2,425
経済学部・消費経済学科	15	37
経済学部・経営学科	89	37
経営学部・経営学科	2,071	2,500
法学部・法学科	1,638	2,757
法学部・企業法学科	29	24
法学部・国際関係法学科	5	6
人間生活科学部・幼児保育学科	1,364	2,219
人間生活科学部・管理栄養学科	2,471	2,338

この中で、経済学部の後期の有効回答数が多い。その理由は、後期の方が授業の総数が多いためであると推測できる。次に、管理栄養学科の有効回答数が、前期及び後期とも、比較的多い。その理由は、管理栄養学科の授業の総数が多いためであり、出席率も高いためであると推測できる。

(2) 質問項目ごとの分析

1 あなたは、この授業に出席していますか。

- 1 ほとんど出席している (出席率：90%以上)
- 2 かなり出席している (70%程度)
- 3 どちらともいえない (50%程度)
- 4 あまり出席していない (30%程度)
- 5 ほとんど出席していない (10%以下)

この質問に対する平均値は、次の通りである。

	前期	後期
経済学部	1.67	1.57
経営学部	1.64	1.57
法学部	1.57	1.63
人間生活科学部	1.19	1.26

この中で、人間生活科学部の平均値が、他の3学部に比べて、低い。幼児保育学科の平均値は前期 1.25、後期 1.29 であり、管理栄養学科の平均値は前期 1.16、後期 1.22 である。これは、人間生活科学部の授業は、出席率が高いことを示している。幼児保育学科も管理栄養学科も、免許や資格に関係する科目が多く、必修科目が多いのに加え、授業は、クラス別に開講されているからであると推測できる。

2 あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。

- 1 非常に意欲的である
- 2 かなり意欲的である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり意欲的でない
- 5 全く意欲的でない

この質問に対する平均値は、次の通りである。

	前期	後期
経済学部	2.31	2.09
経営学部	2.34	2.16
法学部	2.34	2.21
人間生活科学部	2.14	1.93

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 2.01、後期 1.80 であり、管理栄養学科の平均値は、前期 2.20、後期 2.06 である。これらの平均値を比較すると、幼児保育学科の学生が、一番意欲をもって授業に取り組んでいると理解できる。

3 教員は、授業時間を守っていますか。

- 1 非常に守っている
- 2 かなり守っている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり守っていない
- 5 全く守っていない

この質問に対する平均値は、次の通りである。

	前期	後期
経済学部	1.80	1.80
経営学部	1.85	1.84
法学部	1.77	1.84
人間生活科学部	1.73	1.68

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 1.68、後期 1.61 であり、管理栄養学科の平均値は、前期 1.75、後期 1.74 である。教員が授業時間を守ることにについては、学部による差異はほとんどない。ほとんどの教員が、授業時間を守っていると理解できる。

4 授業内容は、わかりやすいですか。

- 1 非常にわかりやすい
- 2 かなりわかりやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなりわかりにくい
- 5 非常にわかりにくい

この質問に対する平均値は、次の通りである。

	前期	後期
経済学部	2.46	2.35
経営学部	2.60	2.38
法学部	2.39	2.27
人間生活科学部	2.54	2.22

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 2.34、後期 2.06 であり、管理栄養学科の平均値は、前期 2.34、後期 2.38 である。授業内容のわかりやすさについては、学部による差異はあまりない。ただ、平均値が真ん中の 3 に近いことが気にかかる。学生は、どの程度授業がわかりやすいと考えているのか。学生は、授業内容を理解しているのだろうか。質問項目 11 の結果を見ると、「専門用語がむずかしい」と考える学生が、前後期とも、多い。学生が本当に授業内容を理解しているか

どうかについては、詳細な検討が必要であろう。

5 教員の声は聞き取りやすいですか。

- 1 非常に聞き取りやすい
- 2 かなり聞き取りやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなり聞き取りにくい
- 5 非常に聞き取りにくい

この質問に対する平均値は、次の通りである

	前期	後期
経済学部	2.02	1.99
経営学部	2.19	1.97
法学部	2.05	1.84
人間生活科学部	2.15	1.86

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 2.09、後期 1.81 であり、管理栄養学科の平均値は、前期 2.18、1.92 である。教員の声は、全般的には聞き取りやすい。しかし、「かなり聞き取りにくい」と「非常に聞き取りにくい」をあわせると、前後期とも、それぞれの学部で 1 割前後が存在する。中には、聞き取りにくい授業もあると理解できる。

6 授業の速さや進め方は、適切ですか。

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

この質問に対する平均値は、次の通りである。

	前期	後期
経済学部	2.28	2.21
経営学部	2.42	2.18
法学部	2.20	2.13
人間生活科学部	2.33	2.11

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 2.21、後期 1.99 であり、管理栄養学科の平均値は、前期 2.39、後期 2.22 である。授業の速さや進め方は、全学部において適切である。「全く適切でない」と答えた学生は、前後期とも、約 2 パーセントから 5 パーセントである。ごく少数の学生にとっては、授業の速さや進め

方は適切ではないということであろうか。

7 教員の教え方には、熱意が感じられますか。

- 1 非常に感じられる
- 2 かなり感じられる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり感じられない
- 5 全く感じられない

この質問に対する平均値は、次の通りである

	前期	後期
経済学部	2.05	2.00
経営学部	2.15	1.97
法学部	2.07	1.96
人間生活科学部	2.02	1.81

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 1.91、後期 1.72 であり、管理栄養学科の平均値は、前期 2.08、後期 1.89 である。教員の教え方には、全般的に熱意が感じられる。ただし、人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、2.06 であり、管理栄養学科の平均値は、2.38 である。1.4 パーセントから 4 パーセントの学生は、熱意が「全く感じられない」としている。

8 教科書、板書、配布資料、視聴覚教材が活用されていますか。

- 1 非常に活用されている
- 2 かなり活用されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり活用されていない
- 5 全く活用されていない

この質問に対する平均値は、次の通りである

	前期	後期
経済学部	2.15	2.11
経営学部	2.25	2.12
法学部	2.08	2.11
人間生活科学部	2.11	2.01

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 2.04、後期 2.03 であり、管理栄養学科の平均値は、前期 2.15、後期 1.99 である。全般的に言えば、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材が活用されている。学生にとっては、教科書や配布資料

があったほうが安心かもしれない。教員の側から言えば、教科書や配布資料は、学生にしっかりと読んでほしい。

9 視聴覚機器（ビデオ、OHP、プロジェクターなど）が活用されていますか。

- 1 非常に活用されている
- 2 かなり活用されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり活用されていない
- 5 全く活用されていない

この質問に対する平均値は、次の通りである

	前期	後期
経済学部	3.03	3.21
経営学部	3.26	3.37
法学部	3.72	3.80
人間生活科学部	2.95	2.77

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 2.93、後期 3.03 であり、管理栄養学科の平均値は、前期 2.96、後期 2.53 である。数字の上から判断すると、法学部が最も視聴覚機器を活用していない。法学部の半数の学生は、前後期とも、視聴覚機器が「全く活用されていない」と感じている。他の3学部では、前後期とも、「全く活用されていない」と感じている学生は、約3～4割である。

10 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

この質問に対する平均値は、次の通りである

	前期	後期
経済学部	2.46	2.21
経営学部	2.51	2.28
法学部	2.35	2.24
人間生活科学部	2.37	2.11

人間生活科学部・幼児保育学科の平均値は、前期 2.31、後期 2.05 であり、管理

栄養学科の平均値は、前期 2.40、後期 2.16 である。全般的に言えば、教員の対応は、適切である。しかし、「あまり適切でない」と「全く適切でない」とをあわせると、前期では、11 パーセントから 16 パーセント、後期では、7 パーセントから 10 パーセントになり、教員の対応を不満に感ずる学生もいる。

- 11 あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか。次の中から 3 項目以内で選んでください。
- 1 専門用語がむずかしい
 - 2 授業がつまらない
 - 3 黒板の字が読みにくい
 - 4 授業内容をプリントにしてほしい
 - 5 受講人数が多すぎる
 - 6 休講が多い
 - 7 開講曜日や時限が悪い
 - 8 学生の取り扱いが不平等である
 - 9 教員がいばったり、学生を見くだす
 - 10 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない
 - 11 授業のための施設、設備に満足できない

前後期とも、学生が選んだ項目は、順に「専門用語がむずかしい」、「授業がつまらない」、「黒板の字が読みにくい」である。そして、「授業内容をプリントにしてほしい」と願う学生も多くなっている。他の項目を選んだ学生は、少数である。